

入学時の成績と看護師国家試験成績との一考察

坪田佳子¹⁾ 廣部すみえ¹⁾ 市波和子¹⁾

要 旨：入学試験時の選抜方法および成績と国家試験結果との相関分析を行った。入学時の成績と国家試験の成績との有意な相関はみられなかった。入学選抜方法別にみても同様な結果であった。入学時の成績に関係なくモチベーションを高めるような教育支援ができれば、国家試験の成績を伸ばすことが可能であることが示唆された。大学としての学習環境の整備や教員の教授能力の質の向上を図ることが重要である。

【Key words】 入試選抜方法、入試成績、看護師国家試験

緒 言

近年、少子高齢化が急速に進展し、医療の需要に対応した良質な看護の提供が求められている。このことが国家試験にも反映され、平成16年（第93回）の看護師国家試験から看護師にとって特に重要な基本的事項を問う必修問題が導入された。また、必修問題が、平成22年（第99回）から現在の30問から50問に増えることが決定している¹⁾。

現在、大学全入時代と少子化の影響で、大学においては定員確保の課題は重要である。看護師3年課程養成所の入学者数の定員割れが起きている。本学においても定員の確保は必須の課題である。国家試験合格率100%の達成は本学の教育の質を社会的に示し、学生獲得の一手段にもなる。

本調査の目的は、入学試験時の成績と国家試験結果との関連の有無を明らかにし、入試のあり方や国家試験対策の基礎資料を得ることにある。

調査方法

1. 調査対象

平成18年度に入学した福井医療短期大学看護学科の1期生で、平成21年度の第98回看護師国家試験を受験した学生36名である。

2. 調査内容

入学時の選抜方法別入学試験時の成績と国家試験の正答数との相関を必修問題と一般問題・状況設定問題に分けて分析する。

3. 統計処理には、SPSS17.0を用いて統計処理を行う。

データ算出方法：標本数が少数であること、入試成績が正規分布していないことから入試成績は100点満点で換算し、国家試験点数は素点とした。

4. 倫理的配慮

調査に際しては、無記名としランダムにIDをつけた。調査結果は本目的以外には使用しない。データは研究者が責任をもって保管する。また、研究終了後はデータを速やかに破棄する。

第93回から第98回看護師国家試験の合格率の推移

第93回から第98回看護師国家試験の合格率の推移（第97回までは福井医療技術専門学校3年課程）を、全国平均と本学とで比較した。本学の合格率は、第96回を除き、全国平均と比較し高い割合で推移しており、第95回、第97回、第98回の看護師国家試験の合格率の差は（ $p < 0.05$ ）有意に高いといえる（図1）。また、第98回看護師国家試験の合格率は、本学は100%を達成した。この時の全国平均は89.9%であった。

¹⁾福井医療短期大学 看護学科
（受付日 2010年3月）

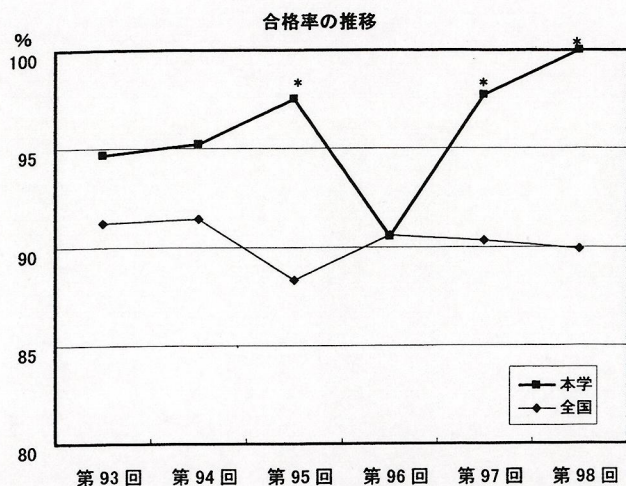


図1 第93回から第98回看護師国家試験合格率の推移

結果

1. 1期生入学時の選抜方法別入学試験時の成績

1期生(36名)の入試選抜状況は、一般入学試験(第1次募集)20名、一般入学試験(第2次募集)2名、推薦入学試験6名、指定校推薦入学試験6名、社会人入学試験2名であった。指定校推薦入試については、面接のみであるため相関分析については除外した。入学時の選抜方法と試験の時期については表1の通りである。

表1: 入学試験選抜方法

入学試験区分	試験時期	試験内容	調査内容
一般入試(第1次募集)	1月下旬	3科目選択・面接	3科目平均点
一般入試(第2次募集)	3月下旬	3科目選択・面接	3科目平均点
推薦入試	11月下旬	2科目選択・面接	2科目平均点
指定校推薦入試	11月下旬	面接	
社会人入試	11月下旬	小論文・面接	面接得点

選抜方法別入学試験時の成績は一般入学試験(第1次募集)での平均点は70.4点、一般入学試験(第2次募集)での平均点は57.0点、推薦入学試験では88.0点、社会人入学試験では71.0点であった。入学試験時の全体の成績(n=30)は、平均値73.1点、標準偏差10.4点であった(図2)。30名の入学時の成績分布をみると、入試成績が正規分布していないこと、入試試験選抜区分で比較検討する場合、標本数が少数例であることから偏差値を算出せず、入試成績は100点満点で換算、国家試験点数は素点で分析を行った。

2. 国家試験の正答数

学生の国家試験(n=36)の正答数をみると、必修問題は平均点27.7点、標準偏差1.568(図3)、一般・状

況設定問題は平均点206.9点、標準偏差10.773であった(図4)。

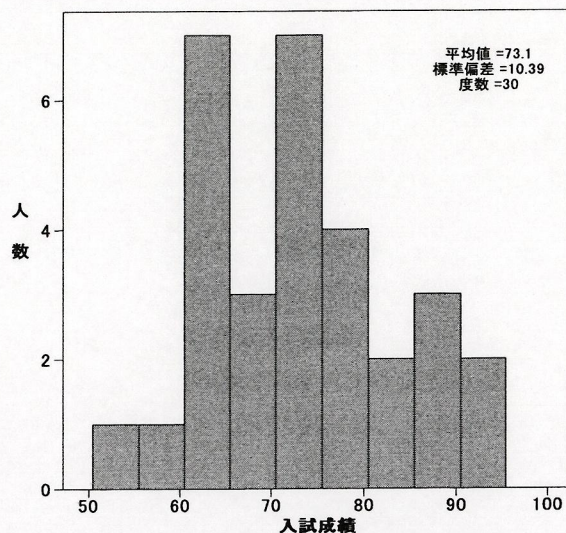


図2: 入学試験時の成績

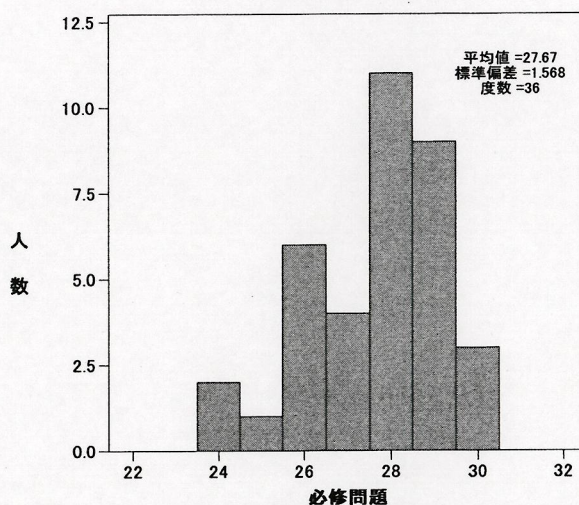


図3: 必修問題の正答数

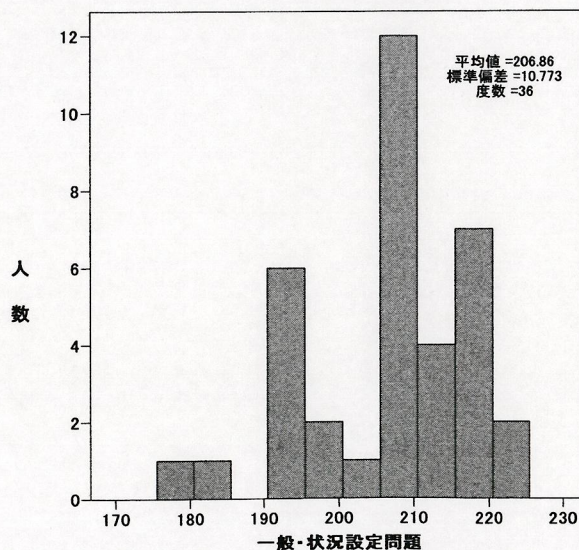


図4: 一般・状況設定問題の正答数

3. 入学試験時の成績と国家試験の正答数との相関

1) 入学試験時の成績と必修問題との相関

国家試験合格ラインは、必修問題では30点満点で24点以上であり、問題の8割以上の正解が求められる。入学時の選抜方法ごとに入学試験時の成績と必修問題との相関関係をみたが相関はみられなかった(図5)。一般入学試験(第1次募集)の学生に24点者が2名みられた。

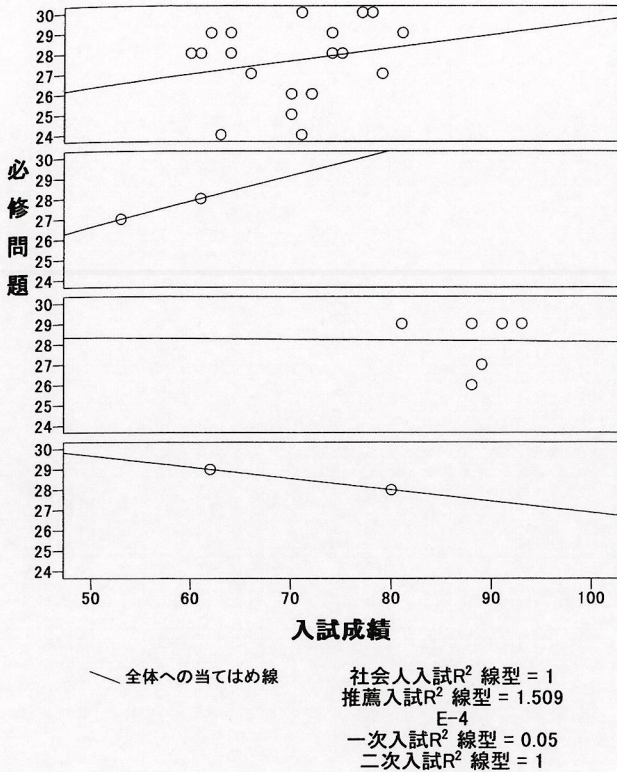


図5：入学試験時の成績と必修問題との相関

2) 入学試験時の成績と一般・状況設定問題との相関

一般・状況設定問題においては、174点以上が合格ラインであったが、178点が1名いる他は200～220点台が多数であった。選抜方法ごとに入学試験時の成績と一般・状況設定問題の相関はみられなかった(図6)。

3) 入学試験区分別国家試験の成績

必修問題、一般・状況設定問題の成績は推薦入学試験の学生が良い傾向がみられた。

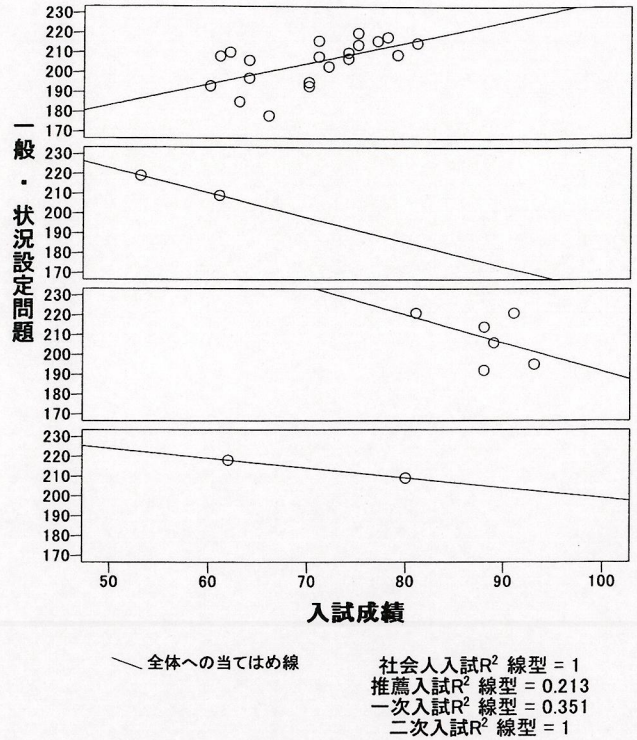


図6：入学試験時の成績と一般・状況設定問題との相関

考 察

1. 看護師国家試験の合格率の推移

第93回看護師国家試験から第97回看護師国家試験までは、第96回看護師国家試験を除いて全国平均よりも合格率は高く推移したが、合格率100%には至らなかった。特に、第96回看護師国家試験の合格率が低下したのは、平成18年は短大への移行期であったことやクラスに精神的に不安定な学生が存在し、その影響が他の学生にも反映しているのではないかと推測される。今後、詳細な分析を試みたいと考える。

2. 選抜方法別入学試験時の成績と国家試験

入学試験選抜方法と国家試験成績との相関分析を行ったが、必修問題、一般問題・状況設定問題いずれにおいても相関は認められなかった。今回、国家試験の合格率は100%であったが、必修問題にて危険であった学生が2名みられた。いずれも一般入学試験(第1次募集)で入学した学生であった。一般入学試験(第1次募集)は1月下旬に実施される。比較的早期に入学が決定することで受験勉強から解放された気持ちの緩みが、そのまま入学後にも継続していることも考えられる。入学前教育、入学後の導入教育に工夫が必要と分かった。

また、入学試験での成績が50点台であった学生が必ずしも、国家試験の成績が悪いわけではない。入学後から国家試験に向かうまでの間に、本人のモチベーションを上げていくような学校側の要因や個別的要因があったのではないかと考える。佐藤は「入学を許可した学生に対する責任は、その学校が負うものである。学生の質の改善・向上は教育力の質の改善・向上を意味するものである²⁾」と述べており、入学してから卒業するまでの期間、講義、演習、臨地実習という授業形態を通して看護を教え、看護を学ぶという学習支援の在り方や教員としての責務の大きさを実感し得た。

3. 今後の学生支援の在り方

第93回看護師国家試験から導入された、看護師にとって特に重要な基本的事項を問う必修問題も平成22年(第99回看護師国家試験)から現在の30問から50問に増えることが決定している(総問題数は現行の240問と変わりはない)。この必修問題が8割以上正解しないと国家試験は不合格となる。このことをふまえ、必修問題が取り入れられた第93回看護師国家試験以降の必修問題の出題傾向の分析を行い、対策を講じる必要があると考える。

また、平成18年4月に入学した学生は、小学校の時から「ゆとり教育」によって学習内容を削除した現行の学習指導要領で学んできた、いわば「ゆとり教育」の1期生でもある。昨今「ゆとり教育」を受けてきた学生の学力の低下が問題となっているが、入学を許可した以上学生に対する責任は学校が負うべきであり、教員も学生の特性をふまえ学生支援について検討しなおす必要があると考える。

結 論

1. 入学試験時の成績は国家試験成績との相関はなかった。
2. 基本的事項を問う必修問題の出題傾向の分析と知識を定着させるために、学習の支援方法を十分に考える必要がある。
3. 入学試験時の成績にこだわるのではなく、学校の責任としていかに意欲を引き出し、看護の面白さを知るような学習方法の工夫がさらに必要である。
4. 個々の学生の特性をふまえ、チューター制による継続した、学力およびメンタル面でのサポートが重要で

ある。

5. 大学としての学習環境の整備や教員の質の向上を図ることが課題である。

おわりに

今回、短期大学として第1回目の国家試験であり、今回の分析から決定的な対策が明らかになったわけではない。大学全入時代を迎え看護師学校(大学)は平成20年5月1日現在167大学となっている³⁾。このような現状のなかで学力、意欲のある学生は4年制大学への入学を選択するであろう。短期大学として学生を確保していくことは容易なことではないと考える。そのためにも看護師国家試験合格率100%は継続して行かなければならない。今後も引き続き国家試験の分析と対策、および学生に対しての支援の在り方を検討していきたいと考える。

文 献

- 1) 医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告書, 2008.
- 2) 佐藤禮子: 看護のFDという視点からの学習支援の必要性, 看護研究, 第50巻, 第7号, 医学書院, 2009, P575.
- 3) 文部科学大臣指定(認定)医療関係技術者養成学校一覧: 文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/1217788.htm